

大阪薬科大学広報委員会

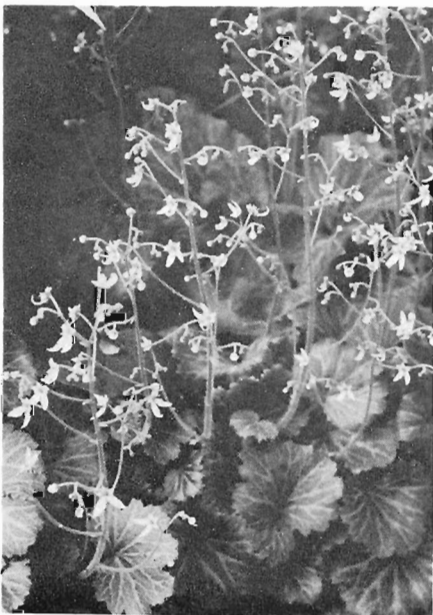
ユキノシタ

ユキノシタ *Saxifraga stolonifera* Meerb. (Saxifragaceae ユキノシタ科) は本州、四国、九州の山地などに自生する半常緑の多年生草で、庭の陰地にも普通に栽植されている。一説によれば中国から観賞用、薬草として持ち込まれたのが帰化したのだとされている。非常に繁殖力が強く、紅紫色の走出枝 (Stolon) を出し、その先に新しい苗をつけ広がってゆく。葉は多肉質、腎心円形で、長い柄を持っている。葉の表面の葉脈に沿って白い縞模様があり、また裏面が暗紅色をしているのが特徴であるが、園芸品種が出来ており、紅色のうすいものや、葉の表面にも紅色が強く現れているものもある。類似種にハルユキノシタがあるが、これは走出枝を出さないもので区別できる。5-7月頃に円錐状の花茎を出し、特徴のある5弁の花を多数つける。湿り気のある所なら大抵の所でよく育ち、庶民になじみの深い植物で、若葉はテンプラにしたり、おひたしにして食べると美味しい。民間薬としてもよく知られており、火傷やできものに葉を



火であぶって貼りつけたり、ひびやしもやけに葉を黒焼きにしてゴマ油と混ぜてつけたり、ウルシカブレに生葉を塩でもんで貼りつけたりする。また子供のセキヤヒキツケに生葉をもんで得たしぼり汁を飲ませたりする。中国では本植物を、若葉の形が虎の耳に似るところから虎耳草と呼ぶが、やはり古くから薬用にしており、祛風、清熱、涼血解毒薬として、湿疹、中耳炎、丹毒、痔疾などに用いている。成分としては saxifragin, arbutin, caffeic acid, esculetin が報告されている。ユキノシタの名前の由来は、冬に緑の葉の上に雪が積もった様子を賞でたものとする説、白い花を多数つけた様子を雪にみため、その下に緑の葉がちらちら見えるのを賞でたものとする説、白い花で特に下の二枚の花弁が大きく舌のように垂れる様子から、雪 (白い) の舌と呼ぶのだとする説などいろいろである。外国でもいろいろな呼び名があるようで、old man's beard (英), Judenbart (独)などは花の形からきていて、strawberry stone-break (英), Steinbrech (独)などは学名の *Saxifraga* (岩を割る、石を砕く) と同じ意味で、この仲間が岩の割れ目によく生えていることに由来する。なお、この石を砕くの意味には腎臓結石を溶かす薬効があることからきていたとする説がある。mother of thousands (英) など、その由来はどうなんだろう、などと考えるのも楽しい。

(小澤 貢)



就 任 挨拶



学 長 藤 田 榮 一

昭和60年4月1日付で、大阪薬科大学学長に就任致しました。81年にわたる輝かしい歴史と伝統をもつ本学の学長に任命されましたことは、私にとりまして誠に光栄に存じます。と同時に責任の重大さを痛感致しております。

私は昭和18年9月に京都帝国大学医学部薬学科を卒業し、直ちに海軍薬剤見習尉官（短期現役）に任ぜられ、海軍軍医学校を経て呉海軍病院、大阪海軍病院に薬剤官として勤務し、終戦と同時に大学の研究室に帰って研究に従事し、昭和26年徳島大学薬学部助教授、同29年教授、35年から37年まで米国ウィスコンシン大学に博士研究員として故 S. M. Kupchan 教授の研究室に留学し、帰国後同年末に京都大学化学研究所教授に配置換えになり昭和60年3月31日に京都大学を停年退官致しました。昭和57年4月から同59年3月まで京都大学化学研究所長を併任されましたが、この時の経験が少しでも今後の役に立ってくれればいいかと念じております。

幸い本学には、森下 泰理事長をはじめとして立派な理事の方々、評議員の方々がおられますので、これらの皆様の御指導のもとに最善を尽くしたいと考えております。また堀田輝明前学長が数々のすばらしい企画を立案、遂行され本学の発展に多大の貢献をされました。たとえば学生会館の増築、改修工事の完成、松原市に3132㎡の校地購入、学生クラブハウスの建設、大学院博士課程設置、八十周年記念事業の実行等、目をみはるものがあります。その他学内の諸規程や教育、研究用設備、機器類の整備を着々と実行され、本学があらゆる面で急速に充実しつつあるのを実感致しております。勿論このような充実発展が教員、事務局職員の皆様方の御協力の賜物であることは申すまでもありません。本学がこのように輝かしい伝統と歴史を糧としながらそこに安住するこ

となく、益々建設的に前進しつつあることは誠に御同慶の至りであります。

私は本学が薬学教育ならびに研究の機関として、さらにさらに充実発展するように努力する覚悟であります。学生諸君が本学に学んでほんとうによかったと考えるような大学であるように常に心掛けてゆきたいと思えます。そして教員の皆様が情熱をもって若い学生諸君に講義し、自らの研究、勉学に熱中することができるような大学であってほしいと念願致します。そのような環境、雰囲気づくりに少しでもお役に立つべく努力したいと考えております。

しからば具体的に何をすべきであるかは、少し腰を落着けてじっくり考えたいと思えます。日常の運営は学長が代ってもとぎれることなく進行しますが、やはり私は私なりに自らのえがかく理想に少しずつでも近づけてゆきたい。しかしそれが本学教職員の総意と合致した進路でなければならぬと考えます。

いずれにせよ私の任期の初年度の第一歩は踏み出されました。一日も早く本学の日常の諸事に慣れ、本格的な前進をめざしたいと思っております。どうぞ皆様、絶大な御支援と御協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

また同窓会、父兄会の本学に対する御支援、御協力に對しまして深く感謝致します。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、理事、評議員、教職員および関係各位の御健勝と益々の御活躍をお祈り致します。また本学学部ならびに大学院学生諸君が健康で有意義な学生生活を送られますよう切に祈ります。

学長就任にあたり、一言御挨拶と致します。

就任あいさつ

事務局長 吉野 幸夫



本年4月1日付で事務局長に就任しました吉野です。私は、昭和22年9月20日に東京文理科大学史学科を卒業して、同日付で文部省に採用され、その後15年間半、もっぱら人事関係事務を担当してきました。

昭和38年4月に九州大学の庶務部長を命ぜられ、その後、国立教育研究所の庶務

部長、国文学研究資料館の管理部長を経て、昭和51年7月に大阪外国語大学の事務局長に任命され、次いで宮崎大学、岐阜大学そして熊本大学の事務局長として勤務しました。

私は、勤務した部署においては『職場における和』ということを中心として、職務に当たることをモットーとして参りました。

創立以来80年の歴史を有する本学におきましても、職場における和を基調として、その任に当たりたいと思っております。何とぞよろしく申し上げます。

なお、薬学との関係については、私は、九州大学において薬学部の創設事務に関与する機会をもち、熊本大学において薬学研究科（博士課程）の設置事務に協力する機会をもちましたことを申し添えます。

昭和59年度卒業生進路状況

就職部長 田中 千秋



就職は人生の重要な節目の一つである。昭和59年度卒業生の多くは就職試験などで貴重な体験を得、色々な方面に進路を求めて学園を巣立って行った。製薬業、病院等医療関連業界の業績悪化、公務員定員の削減傾向という厳しい

状況下にもかかわらず、別表に示すようにほぼ例年並みの好成績を得ることができた。現在も求人は病院、製薬会社を中心に引き続いて来ているので、残っている若干名の未定者もやがて適当な職を得るものと期待している。

昭和59年度の特徴は次のようであった。1) 製薬会社営業所の管理薬剤師に多くの女子が職を得た(17名;前年度6名)。2) 希望の多かった公務員の採用が極めて少なかった(国家1名,地方2名,計3名;前年度男子2名,女子7名,計9名)。3) 病院研修生および大学院進学者が大巾に増加した(前年度研修生男子6名,女子8名,計14名;大学院男子17名,女子5名,計22名)。特に男子の大学院進学者数は今迄の最高となった。大学院進学者の内訳は男子本学19名,大阪大薬4名,岡山大薬2名,神戸女薬,神戸大理,静岡薬大,徳島大薬各1名,計29名;女子岡山大薬1名である。4) 最近の一般

的傾向であるが、求人数が多くて競争の比較的楽な職種は男子の製薬会社営業部門および男女不問の販売業(薬局)であり、競争の激しい職種は公務員、女子の大手製薬会社研究開発部門および大手病院薬局部門であった。

なお、昭和60年度卒業予定者についての就職業務は就職協定にもつき10月1日企業と学生との接触開始、11月1日採用選考開始の線を進める予定である。本年度も薬学部卒業者が全国で約8000名、その内女子が5000名以上に及ぶことから、希望の多い職種では競争はかなり厳しいものになると予想される。早急に卒業後の進路、「進学か就職か」、「適性な職種は何か」を決め、対策を練るよう新4回生に希望するものである。

昭和59年度卒業生進路一覽表(4月8日現在)

進 路	男子	女子	計	%
会社(営業・管理薬剤師)	36	17	53	18.3
会社(開発・生産・研究)	13	40	53	18.3
病 院(薬局)	8	60	68	23.4
薬 局	6	10	16	5.5
公 務 員	3	0	3	1.0
大学職員	0	12	12	4.1
病院研修生	8	11	19	6.6
進学(大学院・その他)	30	2	32	11.0
自家業	0	2	2	0.7
卒業後考える	0	2	2	0.7
就職不希望	1	3	4	1.4
未定(受験中・考慮中)	5	21	26	9.0
計(名)	110	180	290	100.0

就任に際して

教務部長 藤田 直



このたび、はからずも皆様の御推薦によりまして本学の教務部長に就任いたしましたことになりました。この激動の時期に私はその任でないと思っておりますが、本学では選挙即輪番制のようなシステムになっていますので御引受けしたような次第です。

前任の沼田教授が高学識と御経験で本学の教務の充実にめざましい発展を遂げ、数多くの業績を残され、俗に云う手をとり足をとり細部にわたり運営してこれま

した。浅学菲才の私には何もすることはありません。強いてするとしたら「シリ」とり位と思っております。

新年度の教務の事業計画はすでに皆様の御手元に届いていると思いますが、これを実行するに当っては皆様の御協力なしではできません。本学の教育目的完遂の為に最善の努力を講じたいと思っております。皆様におかれましてもお気付きの点がございましたら、教務課にドンドン御申し出下さいます様御願ひ申し上げます。

さて、薬学における教育目的や方針はややもすると抽象的な言葉で示され、曖昧さが浮き彫りにされるが多々あります。しかしカリキュラムと云うものは学生や教員の毎日の生活に直結する現実的なもので批判や不満はつきもので、どこの大学でもその編成は頭痛のタネと思います。しかし本学ではカリキュラムの旧、新課程の交替時期に入り激動の時期とはこのことで中途半端に終わらない様に、将来の薬学教育にふさわしい教育内容の設定に努力したいと存じております。

新入生、在学生諸君、我国の経済社会ではめまぐるしい技術の進歩や需要の多様化に対応できる人間が求められています。その為には学生時代に専門的な知識、技術、豊かな人間性をそなえるための学習、努力がこれまで以上に要求されることを十分肝に銘じて頑張ってください。

教務課だより

新入生の皆様、ご入学お祝い申し上げます。教務課は、選択科目履修届、選択科目受験届、欠席届、休学願等の諸手続をはじめ、薬剤師国家試験あるいは臨床検査技師国家試験等の受験に必要な手続、更には、卒業後に必要な卒業証明書、成績証明書等の発行など、今後在学中はもとより、卒業後も諸君の修学に関する事柄について、お世話をします。従って修学上の問題点、疑問点が生じた時は、どんな些細な事項でも、気軽に教務課へ相談に来てください。

なお、次の事項に就いて特にお願いしておきます。

1. 学生便覧を熟読し内容をよく把握してください。

学生便覧には、修学上必要な学期、学科履修規程、学内試験に関する注意事項、学生実習に関する

注意事項、さらには、台風および交通機関ストの場合の授業等が、記載されています。

2. 掲示板に必ず目を通すよう心がけてください。公示並びに各種連絡事項等は、掲示板に掲示されます。掲示板は、正門横、教務課前、本館西2階、および正面玄関通路左側（3、4回生用）の計4ヶ所に有ります。

◎3回生・4回生用掲示板の増設

全学生への公示並びに各種連絡事項等は、上記4ヶ所の掲示板に掲示されます。従来の教務課前の掲示板が、手狭になったため、正面玄関通路左側に3、4回生用の掲示板が増設されました。今後3回生、4回生の学生諸君は、この掲示板にも、他の掲示板同様に、必ず目を通すようにしてください。

新入生を迎えて

学生部長 栗原拓史



難関を見事突破し入学された新入生の皆さん、おめでとうございます。学生生活の締めくくりとして薬学を選び、本学に入って来られた諸君を心から歓迎致します。

生命科学たけなわの現代、薬学の使命はケミストリーを理解し、物質の化学構造、性質をよく把握した上で、生体との反応を分子レベルにまでほり下げて解き明かしていくところにあります。その為には基礎となる有機化学を十分に勉強しておくことが重要であると考えます。

受験時代大学生になればあれもやろう、これもやろうといろいろ考えてきたことでしょう。そしてついにその時が来たのです。ことなかれ主義、無関心、意欲に乏しい若者が増えつつあるといわれる昨今、新入生諸君の今の情熱を失うことなく、大きな夢と目標を持ち続け一歩一歩その実現に向かって精進してもらいたいと思います。

学内においては体育、文化両面にわたって数多くの施設が完備されつつあり、それ等を大いに活用し肉体の鍛錬と精神の研鑽に役立ててもらえればと思っております。クラブ活動を通して人との交わり、協調性を身につけることも出来るでしょう。

最後に学内における集団生活の中で、いくつかの守られなければならない基本的なモラルがあります。ここ二カ年近く学生部長を経験して感じるものの一つにこのモラルの欠落があります。一昨年来植樹、改築等で一段と美しく雰囲気の良い学内に変貌しつつあることでもあり、お互い協力してより良い学園にしたいものと願っております。

学生部だより

1. 学生証は常に携帯しておくこと
学生課で学割、在学証明書等の交付を受けるとき、ロッカーの鍵を借りるとき、試験を受けるときなど常に学生証が必要です。いつでも身につけておくこと。
2. 身上異動は直ちに学生課へ
住所、下宿、電話、保証人など身上に異動が生じたときは必ず学生課に届け出て下さい。
3. 自分の持物には必ず氏名を書く
教科書、辞書、参考書、白衣、体操服、ユニホーム、傘、マフラ、時計などの忘れ物や落し物が多く、取りに来ない人がありますが、忘れた所、落した所をよく探したうえ、学生課に届け出ること。持物にはすべて名前を書くよう心掛けて下さい。
4. 大学周辺に不法駐車しないよう
今年からは大学院生も含め、マイカー通学は全面

禁止しております。これに伴ってか学校周辺の路地等に不法駐車が毎日見受けられ、近所からの苦情が絶えません。絶対に不法駐車しないようにお願いします。

5. 自転車、単車は指定の駐車場に
自転車は自転車専用置場へ、バイク等の単車は単車駐車場へ、行儀よく並べて駐車すること。学内での速度は10kmで走行し、長期間放置しておかないこと、最近部品の盗難が発生しています。
6. ケガや事故はすぐ届け出ること
ケガや事故を起した時は直ちに学生課に届け出て必要な手当、手続きの指示を受けること。正課授業、実習、体育実技、課外活動、対外試合中などでケガをした場合、初日治療費は学校（課外活動は父兄会）が負担し、4日以上治療を要する場合は傷害保険金が出ますから放置しないこと。

昭和60年度予算の概要について

去る3月26日の理事会及び評議員会において、昭和60年度の予算が決定されましたので、従来の例にならい、消費収支予算書の総括表によりまして、その概要を説明します。

消費収支予算書とは、学校法人財政について、その年度の収入と支出の内容を所定的方式で作成して、その年度の経常的な収支の均衡を見るためのものであります。

〔消費収入の部〕

1. 学生納付金……授業料・入学金等を内容とするものであるが、昭和60年度においては、本年度入学生から授業料を増額したこと等により、前年度比1767万円増の10億9127万円を計上。
2. 手数料……入学検定料・証明手数料等を内容とするものであるが、入学志願者の増加傾向にかんがみ、前年度比211万円の増。
3. 補助金……国からの経常費補助金及び研究設備補助

金を内容とするものであるが、経常費補助金に関する本年度政府予算が前年度と同額であることにかんがみ、前年度と同額を計上。

4. 資産運用収入……銀行預金の利息等であるが、資産の運用方法を考慮して、前年度比200万円の増。
5. 事業収入……学生寮に関する収入・公開講座収入等を内容とするものであるが、公開講座の開催計画との関連等から、前年度比50万円の減。

6. 雑収入……私学退職金財団からの交付金その他を内容とするものであるが、退職者数との関連から、前年度比1070万円の減。

・消費収入の部合計

以上の結果、昭和60年度における帰属収入（学校法人の負債とならない収入）の合計は、前年度比1058万円増の16億4509万円となるが、基本金組入額を1億9600万円とし、昭和60年度の消費収入の部合計は、前年度比1億

消費収支予算書総括表

昭和60年4月1日から
昭和61年3月31日まで（単位円）

〔消費収入の部〕

〔消費支出の部〕

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
学生納付金	1,091,270,000	1,073,600,000	17,670,000	人件費	913,390,000	813,080,000	100,310,000
手数料	55,370,000	53,260,000	2,110,000	教育研究経費	480,720,000	457,130,000	23,590,000
補助金	340,000,000	340,000,000	0	管理経費	88,680,000	116,830,000	△28,150,000
資産運用収入	125,000,000	123,000,000	2,000,000	借入金等利息	21,560,000	22,970,000	△1,410,000
事業収入	16,250,000	16,750,000	△500,000	〔予備費〕	30,000,000	30,000,000	0
雑収入	17,200,000	27,900,000	△10,700,000	消費支出の部合計	1,534,350,000	1,440,010,000	94,340,000
帰属収入計	1,645,090,000	1,634,510,000	10,580,000	当年度消費支出超過額	85,260,000	99,880,000	—
基本金組入額計	△196,000,000	△294,380,000	98,380,000	前年度繰越消費収入超過額	344,750,000	279,360,000	—
消費収入の部合計	1,449,090,000	1,340,130,000	108,960,000	翌年度繰越消費収入超過額	259,490,000	179,480,000	—

896万円増の14億4909万円となる。

〔消費支出の部〕

1. 人件費……教職員給与費・役員報酬等を内容とするものであるが、昭和60年度においては、定期昇給・ベースアップを推算するとともに、教職員の増員を考慮して、前年度比1億31万円増の9億1339万円を計上。
2. 教育研究経費……教育研究用消耗品費・光熱水費・通信費・交通費・印刷製本費その他の教育研究費を内容とするものであるが、昭和60年度においては、教育研究用消耗品については前年度実績のおおむね10%増を考慮するとともに、光熱水費及び交通費の所用増を推算し、他方修繕費を一部抑制することとして、前年度比2359万円増の4億8072万円を計上。
3. 管理経費……教育研究用以外の一般の経費を内容とするものであるが、昭和60年度においては、前年度に

計上した80周年記念行事関係費を削除することとしたが、学生寮外壁の補修・塗装工事を予定して、前年度比2815万円の減の8868万円を計上。

4. 借入金等利息……前年度比141万円の減。
5. 予備費……前年度と同額を計上。

・消費支出の部合計

以上により、昭和60年度における消費支出の部合計は、前年度比9434万円増の15億3435万円となる。

〔消費収支の均衡〕

昭和60年度における消費支出は、8526万円の支出超過となるが、前年度繰越収入超過額3億4475万円を考慮すれば、翌年度への繰越は、2億5949万円の収入超過ということになる。

(事務局長 吉野幸夫)

■研究室だより

衛生化学教室

教授 水谷 泰久



私が大学を卒業した頃は、敗戦後の混乱のさなかで、就職も思うにまかせぬ時期でしたが、幸いにも「文化国家建設」という掛け声の下に大阪市立衛生研究所（当時は生活科学研究所、現在の環境科学研究所）に採用してもらうことができました。以来、戦後の復興期から高度経済成長期を経てオイルショックに至るまで、その時その時における市民生活に直結したさまざまな衛生に関する試験研究にたづさわってきました。この間に身をもって会得したことのひとつは、至極あたりまえのことですが、健康をまもり、増進するための学問である衛生化学は化学——分析化学をはじめ有機化学、無機化学、物理化学など——と生物学——主として毒性学、薬理学など——が車の両輪をなしている応用科学であるということでした。衛生化学教室には、藤田 直先生と私共の両研究室があり、藤田 直先生の研究室では生物学的研究が行なわれており、私共の研究室では化学的研究を進めております。B棟4階の東寄りに衛生化学研究室が設けられた

とき、前記のような理由から両研究室の間を仕切る壁は設けておりません。

現在、私共の研究室では、戸奈助手を中心に、食品中にも含まれており、生体に関係の深いピリミジン、ピラジン系化合物や、さらにこれらを基本骨格にもつフラビン系化合物などの溶液中における挙動に及ぼす生体関連アミン類の影響についての検討をボルタンメトリーによって行なっております。

また、岡田助手らの手によって、衛生上からも重要な化合物であるホルムアルデヒドをはじめとするアルデヒド類の分析などについてポーログラフィーや吸光光度法などによる幅広い検討を進めております。

これらを通して、特別実習の学生諸君が、常に化学物質と生体との関連を念頭におきながら、基礎となる化学をしっかりと身に付けるように願っております。



(前列左から岡田助手、水谷教授、戸奈助手、他は4回生)

■機器紹介

高周波誘導結合プラズマ 分析装置

昭和59年度私立大学施設整備費助成金(半補助)により最新型の高周波プラズマ分光分析装置(島津シーケンシャル型 ICPS-1000 V 及び ICPV-1000 S 型の2機種)が、本館東側1階、製剤機器室の中に3月末日設置され、稼動している。発光分析法は試料にスパーク、アークなどの電氣的、熱的エネルギーを与えて発光励起さ

せ、その放出光を分光して元素特有のスペクトル線を分離検出する原子スペクトロ法で各種方面——環境分析、金属工業、石油、化学、高分子、更には医学、生物学、薬学で繁用されてきている。今回導入された高周波誘導結合プラズマ (inductively coupled plasma, ICP) 分析装置は 300 MHz 以下の周波数でコイルに高周波電流を流し、高周波磁界の時間変化による電磁誘導により発生する電解によって放電を行なうプラズマ (イオンと電子の電荷がバランスのとれた状態で存在する電離気体) を光源としている。このアルゴンの高電離気体を光源とすることにより、従来のアーク、スパーク法とは相異して、次の特長を有している。

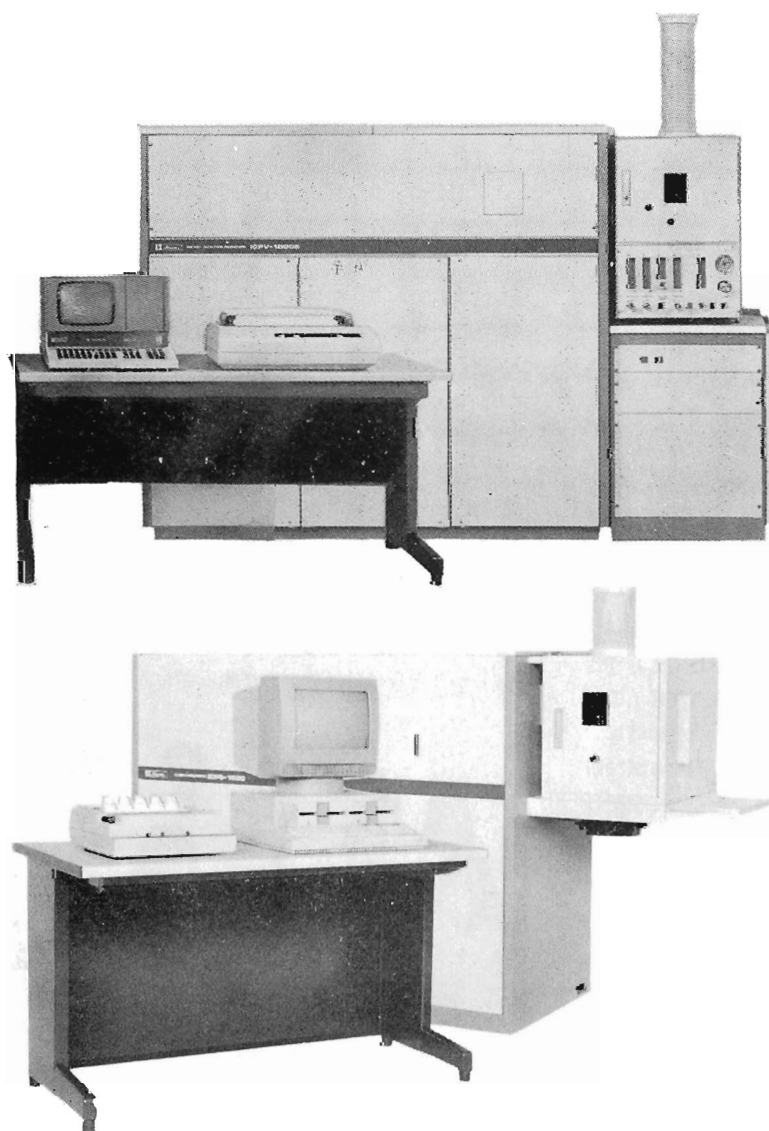
1. 溶液試料の導入による標準試料の作成が容易となり、原子吸光法に優る分析精度の向上、簡便性が増大する。
2. プラズマが高温で、ドーナツ状の穴に試料が入り易く、その滞留時間も長い化学的干渉が減少する。
3. 同一条件で反応でき、主成分、中成分、さらには微量成分などを同時に定量できる。
4. 自己吸収が少なく、極めて高感度である。

これらの特長のもとに、固體試料でなく溶液試料中の各元素分析法として従来の発光分析、原子吸光分析、けい光分析が応用されているあらゆる分野の金属元素、並びに原子吸光法が利用できないリン、硫黄、チッ素などの元素への利用も行われている。従って本装置は原子吸光分析、X線けい光分析法とともに各元素分析計として大いに活用される可能性を秘めている。

次に本装置の仕様を下記に列挙する。

ICPV-1000S (ポリクロ)
型高周波プラズマ分光分析装置
(左上の写真)

ICP光源とマルチチャンネル方式の光電式発光分析装置の組合せで真空紫外域の元素も含め、本購入装置では20元素(50元素まで拡張可能)の同時



分析が可能である。

分光部：曲率半径1000mm、みぞ数2160本/mmの凹面回折格子使用で1650~4137Åの波長範囲測定

光源部：周波数27.120 MHz、水晶制御発振器の高周波誘導結合プラズマ発振装置、並びに石英管三層方式のプラズマトーチ、コンセントリックネブライザー使用

測光部：ミラー積分回路による全元素同時積分方式

データ処理部：QC-4型の中央処理装置と最大100の分析グループのソフトウェアより構成

ICPV-1000S (モノクロ)型高周波プラズマ分光分析装置 (P. 8 下の写真)

二波長同時測定方式のモノクロメーターと豊富なソフト量をもつ高性能シーケンシャル型である。

分光部：凹面曲率半径1000mmの回折格子、分析元素用みぞ数3620本/mm、標準元素用1800本/mm、波長範囲もそれぞれ170~458nm、190~650nm

光源部：ポリクロ型と同様

測光部：Intel 18086 ビットの CPU と V-F 変換の測光方式

データ処理部：CPU 16ビットプロセッサー Z8001 のパーソナルコンピューター内蔵とPR2400感熱式グラフィックドットプリンターより構成

(森 逸男)

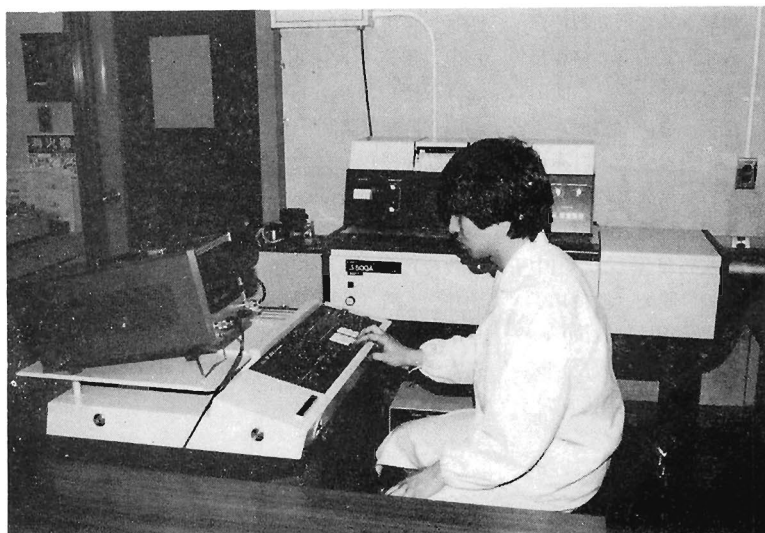
円二色性(CD)分散計装置

本学における多くの研究者は、直接あるいは間接に、分子の立体構造を扱っている。X線結晶解析法の著しい進歩に伴い、有機低分子化合物はもとより、オリゴペプチドを含むタンパク質、オリゴヌクレオチドを含む核酸、およびそれらの複合体等の三次元構造の完全な記述が可能になってきている。しかしながら、この方法には付随する多くの制限と解析法における複雑な手順があるために、成功例はまだそれほど多くはない。また、成功したとしても結晶と溶液中で分子の高次構造が異なる可能性もある。したがって、多くの化合物の静的または動的な微細構造及びそれらの変化を追跡するには化学的または他の物理的方法も併用する必要がある。すでに本学

にはX線結晶解析装置のほか高分解能核磁気共鳴(NMR)装置等が導入され、多大の効果をあげつつあるがこれだけでは不十分である。高次構造またはその変化を調べるための極めて有効な手段として旋光分散(ORD)及び円偏光二色性(CD)の測定がある。旋光分散(ORD)は左右円偏光に対する光学活性物質の屈折率の差を反映し、円偏光二色性(CD)は左右円偏光に対する吸光度の差を反映し測定されるものであって両者は互に変換可能である。単一の遷移吸収帯に対し、CDスペクト

ルは正または負の極大を示し、ORD曲線はその吸収帯を中心として正、負または負、正の二つの極大を示す。したがって近接した遷移吸収帯における測定にはCD測定の方が望ましい。しかし、この測定のための装置は本学にはこれまで導入されておらず不便ながら測定を他大学に依頼していた。しかし、試料が不安定で緊急を要する場合、試料の複雑な現場処理をする場合、また、他の試薬により滴定しつつ測定するなど長時間使用の場合が多く研究に支障をきたしていた。今回、日本分光工業(株)製の円二色性分散計J-500A型が設置されたが、本装置は世界的にも最高の性能を有し、データを処理するためのコンピューターを整備している。よって数多くの教職員、大学院生並びに特別実習生の研究に役立つものと期待される。

(池田 潔)



昭和60年度

各部・各委員会・委員一覧

◎は各部署の長
(昭和60年4月1日現在)

- 教務部 ◎藤田 直(教授)
中元 安雄(講師) 有本 正生(講師)
西野 隆雄(講師)
- 学生部 ◎栗原 拓史(教授)
望月伸三郎(教授) 馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(講師)
- 就職部 ◎田中 千秋(教授)
木村捷二郎(講師) 松村 英子(講師)
- 図書館 ◎森 逸男(教授)
赤木 昌夫(助教授) 坂田 勝治(助教授)
- 学生寮 ◎吉田 嶺吉(教授)
森下 利明(教授) 栗原 拓史(教授)
濱中久美子(講師)
- 薬草園 ◎太田 長世(教授)
小澤 貢(教授) 馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(講師)
- 実験動物センター ◎森本 史郎(教授)
森坂 勝昭(教授) 酒井 清(教授)
藤田 直(教授) 玄番 宗一(助教授)
稲森 善彦(助教授) 中元 安雄(講師)
安田 正秀(講師)
- 広報委員会 ◎森 逸男(教授)
馬場きみ江(助教授) 西野 隆雄(講師)
森本 武司(庶務課長) 杉田 勝美(学生課長)
- 研究委員会 ◎池田 潔(教授)
松永 春洋(教授) 藤田 芳一(講師)
- 排水処理委員会 ◎赤木 昌夫(助教授)
水谷 泰久(教授) 沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授) 栗原 拓史(教授)
- R I 運営委員会 ◎田中千秋(教授)
森坂 勝昭(教授) 酒井 清(教授)
井上 正敏(教授) 森本 史郎(教授)
沼田 敦(教授) 玄番 宗一(助教授)
木村捷二郎(講師)

- 企画委員会 ◎藤田 榮一(学長)
山口 秀夫(教授) 太田 長世(教授)
森坂 勝昭(教授) 井上 正敏(教授)
森本 史郎(教授) 水谷 泰久(教授)
沼田 敦(教授) 小澤 貢(教授)
曾根 節子(助教授)
- 卒業教育委員会 ◎藤田 榮一(学長)
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)
池田 潔(教授)
- 大学史資料委員会 ◎曾根 節子(助教授)
太田 長世(教授) 井上 正敏(教授)
森下 利明(教授) 加藤 義春(助教授)
馬場きみ江(助教授) 吉野 幸夫(事務局長)
森本 武司(庶務課長)

人・事・異・動

- 学長発令 (60. 4. 1)
藤田 榮一(京都大学名誉教授)
- 教務部長発令 (60. 4. 1)
藤田 直(教授)
- 研究委員長発令 (60. 4. 1)
池田 潔(教授)
- 教授発令 (60. 4. 1)
望月伸三郎(保健体育)
- 助教授発令 (60. 4. 1)
加藤 義春(歴史学・英語)
馬場きみ江(生薬化学)
坂田 勝治(英語)
- 助手発令 (60. 4. 1)
宇佐美秀子(生薬学)
岡田 章子(衛生化学)
中尾ますみ(放射化学)
山根 敏子(製剤学)
山本 恭子(有機薬化学)
井上 晴嗣(生化学・新採用)
喜多 俊二(薬用植物園・新採用)
中野さち子(薬理学・新採用)

副手発令 (60. 4. 1)
 澤田ゆかり (放射化学・新採用)
 武田 一代 (MASS・新採用)
 多幡 祐子 (生薬化学・新採用)
 藤田 絹子 (分析化学・新採用)
 松岡 良美 (有機薬化学・新採用)
 松田美奈子 (薬品化学・新採用)
 松本 知子 (生物化学・新採用)
 脇田多恵子 (薬品製造学・新採用)

事務局長発令 (60. 4. 1)
 吉野 幸夫 (新採用)

係長発令 (60. 4. 1)
 中下香代子 (経理課)
 森 かめ代 (庶務課)
 井頭 八郎 (施設課)
 高橋 正好 (教務課)

事務職員発令 (59. 12. 24)
 本田ゆかり (庶務課・新採用)
 (60. 1. 7)
 井本 貴巳 (経理課・新採用)
 仲治多佳子 (庶務課・新採用)

嘱託発令 (60. 4. 1)

川野 タツ (教授)
 上野末太郎 (守衛)

退任 (60. 3. 31)

堀田 輝明 教授・学長
 (任満了につき)
 沼田 敦 教授・教務部長
 (任満了につき)
 小澤 貢 教授・研究委員長
 (任満了につき)

退職 (59. 12. 31)

亀田 元美 (庶務課)
 内山 尚子 (経理課)
 (60. 3. 31)
 川野 タツ 教授 (微生物薬品学)
 阪口 勝亮 助手 (生物化学)
 中島 真弓 助手 (薬理学)
 北野 尚子 助手 (分析化学)
 栗本 真理 助手 (MASS)

長濱 奈津 副手 (有機薬化学)
 濱崎富美代 副手 (生薬化学)
 勝田 真弓 副手 (薬品製造学)
 谷本 美佐 副手 (薬品製造学)
 江連 啓子 副手 (放射薬品学)
 豊田 忠法 図書課長
 上野末太郎 守衛

解嘱 (60. 3. 31)
 平野 弘 教授 (薬品製造学)
 生沢万壽夫 教授 (生物学)
 小村 俊夫 事務局長

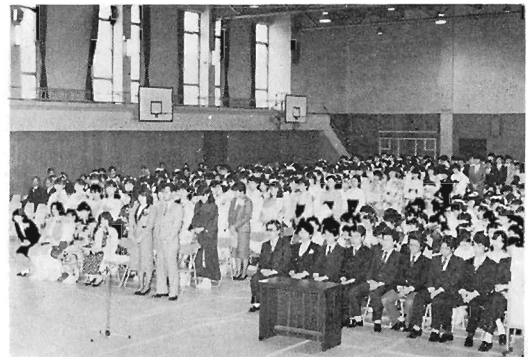
大学ごよみ

〔S 59年〕

10月16日 (火) 80周年記念式典
 12月24日 (月) 後期授業終了 (4回生)
 12月25日 (火) 冬季休業

〔S 60年〕

1月 7日 (月)
 1月 8日 (火) 冬季休業後授業再開 (1~3回生)
 1月 8日 (火) 後期本試験 (4回生)
 1月17日 (木)
 1月19日 (土) 後期授業終了 (1~3回生)



卒業式

1月21日(月) 後期本試験(1~3回生)
 1月30日(水)
 1月22日(火) 後期追試験(4回生)
 1月24日(木)
 1月28日(月) 後期再試験(4回生)
 1月31日(木)
 2月5日(火) 後期追試験(3回生)
 2月7日(木)
 2月9日(土) 第1次卒業予定者発表
 2月11日(祝) 昭和60年度学部入学試験(志願者数
 2678名)
 2月15日(金) 最終試験(4回生・4回生留年者)
 2月23日(土)
 2月16日(土) 入学試験合格者発表
 2月18日(月) 後期再試験(1~3回生)
 2月27日(水)
 2月27日(水) 第2次卒業予定者発表
 3月2日(土) 第9回大学院修士論文発表
 3月7日(木) 進級者発表(1~3回生)
 3月15日(金) 大学院修士課程修了者発表

3月20日(水) 第32回学部卒業式ならびに第9回大学院
 院修了式(学部卒業生290名, 大学院
 修了生8名)
 3月22日(金) 特別実習, 特別講義配属最終決定
 3月22日(金) 平野 弘教授退職記念講演

学位授与

〔博士〕
 有本 正生 薬学博士(60.1.30)
 アリルケイ素化合物を活用する合成反応に
 関する研究(京都大学より)
 松村 瑛子 農学博士(60.3.28)
 酵素による酸化縮合反応の研究とその反応
 を利用した酵素反応測定法の開発(大阪府
 立大学より)
 〔修士〕(60.3.20)
 谷口 雅志 新しい抗炎症薬 ONO-3144 の直腸投与剤
 形に関する研究
 片島 隆雄 アミノ配糖体抗生物質 Gentamicin 及び

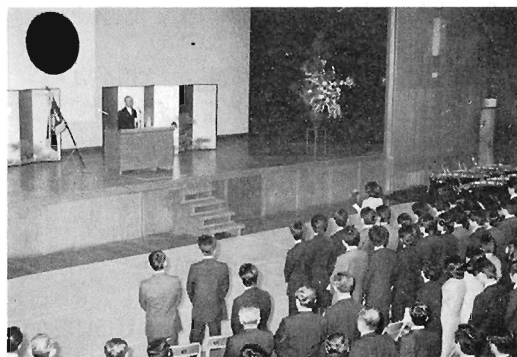


平野 弘 教授退職 —— 名誉教授に

昭和60年3月22日(金)午後2時より
 約2時間にわたり, 本学第31教室におい
 て, “40年の研究生生活を回顧して”と題
 して退職記念講演が行われ, 教職員, 学
 生多数が聴講した。

なお, 3月31日付 嘱託教授を退かれた
 平野弘教授は教育上, 学術上の功績が
 認められ, 昭和60年4月1日付で, 最初
 の大阪薬科大学名誉教授の称号が贈られ
 ました。

- HAPA-B の直腸投与における Bioavailability の改善に関する研究
- 神谷 秀和 薬物の小腸吸収に及ぼす Hyaluronidase の影響に関する研究
- 坂口 実 Z-L-Aspartic acid の Z 基を除去する酵素 “N^α-Benzyloxycarbonyl Amino Acid Urethane Hydrolase IV” について— 探索, 分離精製および諸性質—
- 中嶋 仁嗣 健胃生薬, 益智の消化管作用
- 岩本 隆宏 ラット尿レニンに関する研究
- 山本 拓 ウサギ腎髄質のプロスタグランジン合成に影響を及ぼす因子に関する研究
- 米田 龍司 N, N-Diethyl-1, 9, 9-trimethyl-1, 2, 3, 9a tetrahydro-9 H-indeno [2, 1-b] pyridine 3 carboxamide の合成と立体化学に関する研究



入学式

前期行事予定表

〔S60年〕

- 4月 1日 (月) 春季休業
 }
 7日 (日)
- 2日 (火) 第68回薬剤師国家試験
 }
 3日 (水)
- 10日 (水) 入学式 (学部・大学院)
- 11日 (木) 新入生ガイダンス アドバイザー面談
- 12日 (金) 前期授業開始
- 18日 (木) レントゲン検診
- 26日 (金) レントゲン検診
- 27日 (土) 新入生歓迎会 (学生会卯月祭)
- 5月 4日 (土) 臨時休業
 }
 9日 (木) 創立記念日 (休業日)
- 13日 (月) 内科検診
 }
 14日 (火)
- 13日 (月) { 単位獲得試験 (4年次)
 }
 6月 1日 (土) { 定期試験 (4年次留年生)

- 11日 (火) 単位獲得試験成績発表 (アドバイザーより)
- 7月 1日 (月) 再試験 (4年次留年生)
 }
 5日 (金)
- 11日 (木) 夏季休業
 }
 9月10日 (火)
- 7月20日 (土) 卒業生発表 (4年次留年生)
- 9月11日 (水) 授業再開
- 9月17日 (火) 前期授業終了
 }
 19日 (木) 前期定期試験 (1~4年次生)
 }
 30日 (月)

国家試験の結果

今春施行された薬剤師ならびに臨床検査技師の国家試験の成績は、次の通りであった。

◎薬剤師国家試験

第68回 (60. 4. 2~4. 3施行, 60. 4. 27発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
334名	281名	84. 13%	78. 72%
(290名)*	(254名)	(87. 59%)	(83. 30%)

※括弧内は、新卒者 (昭和60年3月卒業) の数値を示す。

◎臨床検査技師国家試験

第28回 (60. 3. 10施行, 60. 4. 30発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
16名	5名	31.3 %	52.4 %

学友会執行委員会

(昭和59年5月15日現在)

執行委員長	宮本 勝城 (3)
副委員長	細川 忠士 (3)
総務局長	前田 直久 (3)
副局長	中川 和之 (3)
庶務	林 巧 (3) 大原 達也 (3)

会計	立本 里美 (2)	西山 葉子 (2)
書記	坂之上里美 (2)	塚本 由香 (2)
厚生局長	有牛 成隼 (2)	
副局長	大平 保司 (2)	島田 秀治 (2)
広報局長	乾 勝 (3)	
副局長	石田さき子 (3)	松本 慶太 (2)
渉外局長	大森 幸恵 (3)	
副局長	林 宏樹 (2)	尾崎 典生 (2)
体育局長	宮本 和典 (3)	
副局長	永井 久博 (3)	小林 伸行 (3)
	小山 道彦 (3)	
文化局長	井上 正裕 (3)	
副局長	福本 信之 (3)	栢原まさみ (3)
	井上 裕美 (2)	

▷親和会だより◁

春の親和会旅行

昼近くまで雨の残った3月9日に1人の遅刻者もなく“くろしお14号”で勝浦へ。汽車の旅はバス旅行と違い何か華やいだ雰囲気を感じられたが、汽車が少々揺れ、気分を悪くされた方も出ましたが、窓越しに目まぐるしくうつり変わる海と山の風景に気を取られるうち4時間はあっというまでした。地平線が見え、硫黄の臭いのする温泉にひたってくつろいだ後、宴会が開かれ、和気あいあいとうちとけ、飛入りなどでさらに熱狂し、お開きの時間が来た時には、少し時間がたらない様子でした。翌日は、快晴で那智の滝と大社へ、階段は少しき

つい様でしたが、山頂での見晴しは最高でした。前日の雨に木々の緑が一層きわだち、ふきわたる風にも味がある感さえました。海の景観にひたるべく橋杭い岩へ。海岸べりを散策し、潮風にふれ、海の広さを満喫しました。帰りの汽車もトラブルもなく帰阪できました。ここに慎んで皆様方にお礼申し上げます。(親和会幹事)



教員研究業績一覽(1984年)

(1984.1.1~12.31)

1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
サハキアン 堀田輝明 監訳	人生の指標	(東方出版) 1984.4
稲森善彦	第VI章 滅菌と消毒	微生物学II (南江堂)
稲森善彦	第4章 培養法, 第8章 抗生物質の力価測定法, 第9章 細菌の抗生物質感受性 第11章 抗生物質の臓器内分布試験	薬学生のための微生物学実習法 (広川書店)
上井 勝	第8章 電場・電流・磁場, 第9章 電磁現象, 第10章 特殊相対性理論, 第11章 原子の現象と量子論	基礎物理学 (共立出版)
望月伸三郎	ハンドボール競技発展のための課題Ⅲ (ヨーロッパ各国の競技力向上を探る)	全日本教職員ハンドボール連盟紀要第7集
濱中久美子	Sprachkurse in der BRD	ばいでいあ 8, 3 (1984)
加藤義春	世界史像再構成の壮大な試み	ばいでいあ 8, 129 (1984)
坂田勝治	The Dualistic Perspectives : A Note on Dangling Man (II)	ばいでいあ 8, 21 (1984)
坂田勝治	「人生の中軸線」と「内なる声」:ペローの文学的自己解放の道	視界 21, 59 (1984)
森本史郎	利尿薬	薬局 35 (1) 337 (1984)
藤田 直, 藤本陽子	プロスタグランジンの生合成	薬局 35 (8) 9 (1984)
森本一洋, 森坂勝昭	ポリアクリル酸ゲルの製剤への適用性	製薬工場 4 (5) 297 (1984)

2. 一般学術論文

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
新宅幸憲, 武枝敏之, 安田正秀, 中元安雄, 望月伸三郎	運動回復期におけるラット, 血漿, 筋肉中の乳酸および 脂肪酸組成に関する研究	大阪体育学研究 (22) 50 (1984)
土井 勝, 他	Muon Decay and the Majorana Neutrino	Prog. Theor. Phys. 71 (6) 1440 (1984)
土井 勝, 他	Radiative corrections to the symmetry mass relations of Majorana neutrinos	Physical Review D 30 (3) 626 (1984)
土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Three-dimensional structure of monoanionic methio- nineenkephalin: X-ray structure of <i>tert</i> -butyloxycar- bonyl-Iyl-Gly Gly-(4-bromo)Phe Met-OH	FEBS Letters 170 (2) 229 (1984)
井上正敏, 石田寿昌, 他	Fuopyridines. II. Bromination and Nitration of Furo [2, 3- <i>b</i>]-, Furo[3, 2- <i>b</i>]-, Furo[2, 3- <i>c</i>]- and Furo[3, 2- <i>c</i>]- pyridine	J. Heterocyclic Chem. 21, 725 (1984)
石田寿昌, 剣物三千男, 三野芳紀, 井上正敏, 他	X-ray diffraction studies of enkephalins Crystal structure of [(4'-bromo)Phe ⁴ , Leu ⁵]enkephalin	Biochem. J. 218, 677 (1984)
石田寿昌, 井辺幸子, 井上正敏	X Ray Crystallographic, Spectroscopic, and Energy Calculation Studies of the 3-Carbamoyl-1-[3-(indol- 3 yl)propyl]pyridinium Ion, a Charge-transfer Inter- action Model between Tryptophan and Pyridine Coen- zymes	J. Chem. Soc. Perkin Trans. II 1984, 297
石田寿昌, 田中敦子, 井上正敏	Structure of Thiamine Nitrate, C ₁₂ H ₁₇ N ₄ OS ⁺ . NO ₃ ⁻	Acta Cryst. C40, 437 (1984)
石田寿昌, 勝田真弓, 井上正敏	Structure of 9-Ethyl 7 methylguaninium Iodide Dimethyl Sulfoxide Solvate, C ₈ H ₁₂ N ₅ O ⁺ . I ⁻ . C ₂ H ₆ OS	Acta Cryst. C40, 439 (1984)
石田寿昌, 井上正敏	Radioprotectant Bis(2 guanidinoethyl) Disulfide Dihy- drobromide, C ₆ H ₁₃ N ₆ S ₂ ²⁺ . 2Br ⁻	Acta Cryst. C40, 660 (1984)
石田寿昌, 井上正敏, 他	Biotransformation of a Tetrahydroprotoberberine N- Metho Salt to a Spirobenzylisoquinoline accompany- ing N-Methyl Group transfer to O Methyl Group by Callus Cultures of Coly dalis Species	Heterocycles 22, 1343 (1984)
藤田芳一, 森 逸男, 鎌田吉介	Color Reaction Between Polyamines and <i>o</i> -Hydro- xyhydroquinonephthalein-copper(II) Complex	Bunseki Kagaku 33, E103 (1984)
北野尚子, 森 逸男, 藤田芳一, 鎌田吉介	Spectrophotometric Determination of Germanium(IV) Using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Cetyl- pyridinium Chloride	Bunseki Kagaku 33, E163 (1984)
山崎みどり, 森 逸男, 藤田芳一, 北野尚子, 鎌田吉介	フッ化物イオン及び塩化セチルピリジニウム共存下にお けるハフニウム(IV)と <i>o</i> -ヒドロキシヒドロキノロンタレ インとの反応の分析化学的応用	分析化学 33, 170 (1984)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Reserpine in Pharmaceutical Preparations	Bunseki Kagaku 33, E195 (1984)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Sulpyrine Using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Cerium (IV)	Bunseki Kagaku 33, E383 (1984)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子, 鎌田吉介	Spectrophotometric Determination of Berberine Chloride in Pharmaceutical Preparations	Bunseki Kagaku 33, E445 (1984)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Application of <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein Uranium (VI) Complex to Determination of Neomycin and Toburamycin	Chem. Pharm. Bull. 32 (3) 1214 (1984)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子	Determination of Proteins by Using the Color Reaction with Pyrocatechol Violet-Molybdenum (VI) Complex	Chem. Pharm. Bull. 32 (10) 4161 (1984)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子, 川辺博司, 鎌田吉介	The Color Reaction of Purine Bases by Ternary complex Formation with Eosin and Silver(I)	Bull. Chem. Soc. Jpn. 57, 1828 (1984)
中尾ますみ, 鳥田歌子, 山田 晃, 田中千秋, 他	Inhibition of Aldose Reductases from Rabbit Lens by Oxazole Derivatives	Chem. Pharm. Bull. 32 (3) 1032 (1984)
近藤裕一, 佐々木将博, 木村捷二郎	多重電極セルによるトリチウムの濃縮と環境水中トリチウムの定量への適用	Radioisotopes 33, 357 (1984)
木村捷二郎, 左古みち代, 神橋俊隆, 城 尚信, 小出裕章	パンクレアチン製剤の放射線滅菌	Radioisotopes 33, 760 (1984)
木村捷二郎, 近藤裕一	放射性有機廃液の焼却処分 —無機塩添加法による前処理と焼却—	Radioisotopes 33, 808 (1984)
杉山和明, 山下まゆみ, 平野 弘	Studies on 1,4-Benzothiazines. IV. Reactions of 2-Acyl-4 <i>H</i> -1,4-benzothiazines with Hydroxylamine, Hydrazine, Guanidine and Acetamidine	Chem. Pharm. Bull. 32 (4) 1593 (1984)
平野 弘, 杉山和明, 山下まゆみ	New Aspects of the 1,3-Dipolar Cycloaddition of Thiazolium <i>N</i> -Imines with Dimethyl Acetylenedicarboxylate(DMAD)	Chem. Pharm. Bull. 32 (6) 2446 (1984)
栗原拓史, 太田淳稔, 林 博文, 井上正敏, 石田寿昌	Synthesis and Physical Properties of <i>N</i> -2-Phenylethyl and <i>N</i> -2-(3-Indolyl)ethyl-5'-deoxy-5'-adenosineacetamides	J. Heterocyclic Chem. 21, 259 (1984)
栗原拓史, 那須啓子, 萩永聖美	The Reaction of 1,4-Dihydrocyclopent [<i>b</i>] Indoles with Dimethyl Acetylenedicarboxylate	Chem. Pharm. Bull. 32 (6) 2456 (1984)
栗原拓史, 那須啓子, 萩永聖美, 三原京子	Reactions of Pyrazolo[1,5- <i>a</i>]pyrimidine Derivatives with Nucleophiles. IV. Some Reactions of 1,4-Dihydrocyclopent[<i>b</i>]indoles	Chem. Pharm. Bull. 32 (11) 4410 (1984)
春沢信哉, 米田龍司, 栗原拓史, 他	A Novel Synthesis of α, β -Unsaturated Nitriles from Aromatic Ketones via Cyanophosphates	Tetrahedron Letters 25 (4) 427 (1984)
有本正生, 山口秀夫, 他	A New Synthesis of Allyl Nitrates from Allylmetal (Group IVb) Compounds and Thallium (III) Nitrate	Chem. Pharm. Bull. 32 (3) 887 (1984)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
山口秀夫, 中島淳二, 有本正生, 田之口真理子, 石田寿昌, 井上正敏	Studies on the Constituents of the Seeds of <i>Hernandia ovigera</i> L. IV. Syntheses of β -Peltatin A and B Methyl Ethers from Desoxypodophyllotoxin	Chem. Pharm. Bull. 32 (5) 1754 (1984)
有本正生, 山口秀夫, 他	Thallium(III) Mediated Allylation of Alcohols and Carboxylic Acids: Umpolung of Reactivity of Allylmetal(Group IVb)Compounds	Chem. Pharm. Bull. 32 (12) 5027 (1984)
沼田 敦, 勝野孝子, 山本恭子, 西田知子, 竹村鶴子, 他	Plant Constituents Biologically Active to Insects. IV. Antifeedants for the Larvae of the Yellow Butterfly, <i>Eurema hecabe mandarina</i> , in <i>Arachniodes standishii</i>	Chem. Pharm. Bull. 32 (1) 325 (1984)
沼田 敦, 難波江倫子, 他	Magnesium Induced Shifts in the Proton Magnetic Resonance Spectra of Phenols	Chem. Pharm. Bull. 32 (3) 1174 (1984)
沼田 敦, 保木本和子, 竹村鶴子, 勝野孝子, 山本恭子	Plant Constituents Biologically Active to Insects. V. Antifeedants for the Larvae of the Yellow Butterfly, <i>Eurema hecabe mandarina</i> , in <i>Osmunda japonica</i> . (1)	Chem. Pharm. Bull. 32 (7) 2815 (1984)
松永春洋, 森田麗子, 石田寿昌, 井上正敏, 他	The Structure of Spirosupinanediol, a Triterpenoid bearing a Novel Skeletal System from <i>Euphorbia supina</i>	J. C. S. Chem. Commun. 1984, 1128
三野芳紀, 月岡康行, 太田長世	Inorganic Chemical Approaches to Pharmacognosy. II. X-Ray Fluorescence Spectrometric Studies on the Inorganic Constituents of Crude Drugs. (1). On the Licorice Root	Chem. Pharm. Bull. 32 (2) 571 (1984)
三野芳紀, 太田長世	Inorganic Chemical Approaches to Pharmacognosy. I. Major and Trace Elements Determination in Crude Drug Samples by Energy Dispersive X-Ray Fluorescence Spectrometry	Chem. Pharm. Bull. 32 (2) 591 (1984)
安田正秀, 馬場きみ江, 小澤 貢	Biological Actions of the Natural Coumarins. I. Changes of Lipids and Glucose Levels in Rat Plasma after Intraperitoneal Administration of Various Linear-Type Furanocoumarins	Chem. Pharm. Bull. 32 (11) 4650 (1984)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	蛇床子の抗白癬菌作用成分と基原植物について	生薬学雑誌 38(3) 221 (1984)
松村瑛子, 川野タツ, 他	A New Enzyme, N α -Benzyloxycarbonyl Moiety Hydrolytic Enzyme, from <i>Streptococcus faecalis</i> R	Agric. Biol. Chem. 48 (6) 1673 (1984)
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保真百合, 玄蕃宗一, 他	The Effect of Racemomycin D, a Nephrotoxic Antibiotic on Cellular Metabolism of Rat Kidney Cortex in Vitro	Japan. J. Pharmacol. 35, 397 (1984)
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保真百合, 安田正秀, 馬場きみ江, 小澤 貢	Physiological Activities of 3, 3', 4, 5' Tetrahydroxystilbene Isolated from the Heartwood of <i>Cassia garrettiana</i> CRAIB.	Chem. Pharm. Bull. 32 (1) 213 (1984)
稲森善彦, 久保真百合, 加藤喜昭, 安田正秀, 馬場きみ江, 小澤 貢	The Antifungal Activity of Stilbene Derivative	Chem. Pharm. Bull. 32 (2) 801 (1984)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保真百合, 馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Mechanisms of Insecticidal Action of Deoxypodophyllotoxin (Anthriscin). II. Histopathological Studies on Tissues of Silkworm Larvae Intoxicated by Deoxypodophyllotoxin	Chem. Pharm. Bull. 32 (5) 2015 (1984)
加藤喜昭, 久保真百合, 稲森善彦	Chemical Structure of a New Metabolite Isolated from the Mycelium of <i>Aspergillus terreus</i> var. <i>aureus</i>	Chem. Pharm. Bull. 32 (10) 4213 (1984)
稲森善彦, 久保真百合, 加藤喜昭, 安田正秀, 馬場きみ江, 小澤 貢	3, 3', 4, 5'-Tetrahydroxystilbene ならびにその誘導体の冠血管拡張ならびに血圧降下作用	薬学雑誌 104 (7) 819 (1984)
池田 潔, 他	Studies on Two Types of Phospholipase B from <i>Penicillium notatum</i>	J. Biochem. 95, 1407 (1984)
池田 潔, 他	pH Dependence of the Binding Constant of a Phospholipase A ₂ from <i>Aegistrodon halys blomhoffii</i> Venom to Micelles of <i>n</i> -Hexadecylphosphorylcholine	J. Biochem. 96, 1427 (1984)
池田 潔, 他	Bindings of Ca ²⁺ and Substrate Analogs to a Cobra Venom Phospholipase A ₂ in which the α -Amino Group Is Modified to an α Keto Group	J. Biochem. 96, 1903 (1984)
森本一洋, 赤土博章, 森坂勝昭, 他	Enhanced Rectal Absorption of [³ H]-eel Calcionin in Rats Using Polyacrylic Acid Aqueous Gel Base	J. Pharm. Sci. 73, (10) 1366 1984
藤本陽子, 丸田真一, 吉田明子, 藤田 直	Effect of Transition Metal Ions on Lipid Peroxidation of Rabbit Renal Cortical Mitochondria	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol. 44 (3) 495 (1984)
藤本陽子, 赤松直樹, 服部敦子, 藤田 直	Stimulation of prostaglandin E ₂ synthesis by exogenous phospholipase A ₂ and C in rabbit kidney medulla slices	Biochem. J. 218, 69 (1984)
藤本陽子, 谷岡秀敏, 樋端詠子, 山本 拓, 藤田 直	Inhibition of prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla slices by antioxidants	J. Pharm. Pharmacol. 36, 195 (1984)
高岡昌徳, 秋山寛子, 岡村啓史, 森本史郎	Excretion Patterns of Urinary Enzymes Having Amidolytic and Esterolytic Activities in the Urine of Male and Female Rats	Chem. Pharm. Bull. 32 (3) 1120 (1984)
森本史郎, 大野行弘, 松村靖夫, 宮脇宣明, 水谷泰久	Effects of Ascorbic Acid and Ferrous Ions on Renin Release from Renin Granules of Vitamin E-Deficient Rats	Chem. Pharm. Bull. 32 (5) 2033 (1984)
森本史郎, 中島真弓, 水谷泰久, 岡村啓史, 秋山寛子, 高岡昌徳	A Kinin-Generating Amidase Activated by Trypsin in Rat Urine	Chem. Pharm. Bull. 32 (11) 4572 (1984)
松村靖夫, 宮脇宣明, 大野行弘, 森本史郎	Stimulant Effects of W-7, A Calmodulin-Antagonist, on Renin Release from Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharm. Dyn. 7, 346 (1984)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
森本史郎, 伊藤勝彦, 岩本隆宏, 小瀬田有香, 高岡昌徳	Conversion of Low Molecular Weight Renin into the High Molecular Weight form by Cu^{2+} in the Rat Kidney	J. Pharm. 7, Dyn. 820 (1984)
高岡昌徳, 岡村啓史, 岩本隆宏, 池元ちとせ, 三村靖子, 森本史郎	Purification to Apparent Homogeneity of Inactive Kallikrein from Rat Urine	Biochem. Biophys. Res. Commun. 122 (3) 1282 (1984)
森本史郎, 秋山寛子, 高岡昌徳, 岡森啓史	High-performance liquid chromatography with a continuous-flow enzyme detector for the demonstration of the conversion of rat urinary inactive kallikrein into its active form	J. Chromatogr. 295, 226 (1984)
松村靖夫, 宮脇宣明, 森本史郎	Effects of W-7 and W-5 on Renin Release from Rat Kidney Cortical Slices	Japan. J. Pharmacol. 36, 268 (1984)
玄番宗一, 御厨直子, 橘 明美, 中島真弓	Effect of Lithium on Organic Ion Transport in Rat Kidney Cortical Slices	Japan. J. Pharmacol. 34, 128 (1984)
中島真弓, 御厨直子, 玄番宗一	Effect of Papaverine on Organic Anion Transport in Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharm. Dyn. 7, 342 (1984)
中島真弓, 中西順一, 堀 光彦, 玄番宗一	Transport of Papaverine in Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharm. Dyn. 7, 830 (1984)
〔1983年追加〕		
土井 勝	The Pion Decay and the Massive Neutrino	Science Reports 32, 19 (1983)